

## 平成 25 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻

博士前期課程 2 年 高橋 豪

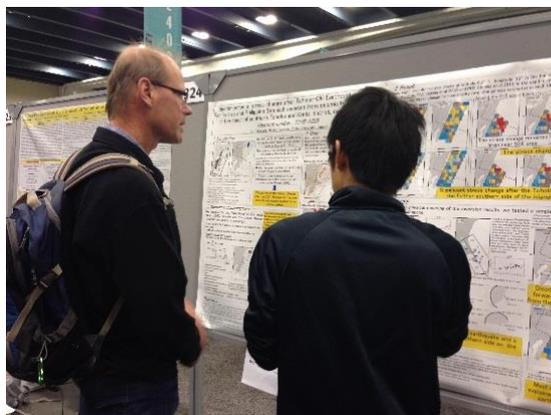
日本地震学会から海外渡航助成金を頂いて、12月9日から13日にかけてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコで開催された American Geophysical Union Fall Meeting 2013 に参加し、研究発表をして参りましたのでその成果を報告させていただきます。

私は Seismology の Seismicity のセッションでポスター発表をしました（写真）。発表のタイトルは Spatio-temporal stress change after Tohoku-Oki earthquake in the Pacific slab and Philippine Sea slab inverted from seismicity rate change in the coast of southern Tohoku and Kanto district, central Japan で、東北地方太平洋沖地震の破壊域の南端部に位置する関東地方沿岸部周辺における東北地方太平洋沖地震発生後の空間的な応力変化の時間変化についての研究です。巨大地震による応力変化や巨大地震発生後の余震活動に興味を持っている多くの方が発表を聞きに来てくださいました。

発表の中で、本研究で使用した地震発生回数の変化から応力変化を推定する手法について多くの質問を受けました。また、議論のところで行った応力変化のモデル計算に関しては、使用したパラメーターやモデルについて意見をいただきました。更に、地震発生回数の変化から推定された応力変化とモデル計算から推定された応力変化を比較した際、それらが一致しなかった領域の解釈について多くのコメントを頂くことができました。

自分の発表が終了した後は、余震活動や応力変化、誘発地震に関する研究の発表を聞いて回りました。巨大地震発生による応力変化についての研究や、東北地方太平洋沖地震に関する研究は海外の方も思っていた以上に多くの方が取り組んでいて自分の研究の重要性を感じました。また、他の研究発表を聞き、議論をすることで応力変化や余震活動についての知識の幅が広がったと思います。

以上のように研究に関して多くのことを得る一方で、実践での自分の英語力の低さを実感しました。私の研究に対する質問やコメントを受けながら、言われていることを一度では理解できないことや回答をうまく説明できないことがあり、質問者に助けをいただくことが何度もありました。他の研究を聞きに行った際にも、説明をうまく聞き取れず、何度も質問してしまうことがありました。今後、研究を進めていくだけでなく、実践で使用できる英語力を身につけることが急務であると強く感じました。



↑ 発表の様子

日本地震学会による海外渡航旅費助成金の援助のおかげで、国際学会に参加し、様々な国の人たちと議論を行うという貴重な経験をさせて頂くことができました。今回の AGU への参加で、自分の研究の重要性を感じることができ、研究へのモチベーションがよりいっそう高まりました。また、実践での英語力を知ったという点では、私の今後のために非常に良い刺激となりました。このような機会を与えてくださった日本地震学会と関係者の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。